

組織目標評価報告書（令和3年度）

部局名： 大学院医歯薬学総合研究科 薬学系

部局長名： 三好 伸一

目標・取組	目標・取組の実施状況(成果)及び新たに生じた課題等 (部局での検証とそれに対する取組)
<p><b>①教育領域</b></p> <p>【教育の実施体制(組織的なFD、教員のインセンティブ向上)】 ①連携大学院の在籍学生や社会人学生に対するオンライン授業実施体制を継続整備する。 ②FD部会(学部と共通)主催による教員FDを定期開催し、教育の質の検証ならびに改善に努める。 ③大学院学位プログラム化に対応するカリキュラム編成について検討を進める。 【教育方法・内容】 ①シヤトルカードや電子メール等を活用して受講生と教員の積極的な意思疎通を図り、問題点があれば改善に努める。 ②配属研究室以外の教員を副指導教員とし、学生支援体制の強化を図る。 ③各種サポートが必要と思われる学生(病気、障害、不登校等)に対して、担当教員を選定しフォローすることで、学生支援体制を強化する。 ④休学者数の低減および復学後のフォローアップに努める。 【教育の成果(学習の成果、卒業後の進路)について】 ①卒業後の進路に関する意識調査結果に基づいた検証を継続する。 【国際共同による教育の状況】 ①博士課程・博士後期課程への外国人留学生の受け入れを組織的に推進するために、ONECUS受入可能な薬学系教員の情報を提供する。 ②海外からの博士課程進志望者に対し、海外特別入試を実施する。 【外国人留学生の受入状況】 ①博士後期課程在学中のハイフォン医科薬科大学教員1名に対する研究指導を継続実施する。 ②博士課程入学志望のハイフォン医科薬科大学教員1名に対する研究指導体制を構築する。 【その他】 ①学部生の進学に対するモチベーションを高めるため、大学院卒業生(特に博士後期課程卒業生)の講演や事例紹介など、キャリアパスを実感できる機会を設ける。また、他大学出身者や社会人などの入学を増やすため、オンライン講義の充実や連携大学院など、多彩な学びが出来る環境を充実する。</p>	<p>教育領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</p> <p>【教育の実施体制(組織的なFD、教員のインセンティブ向上)】 ①対象者がいる場合は、対面+リアルタイム配信、あるいはオンデマンド形式で全授業をオンライン対応とした。 ②FD部会主催による教員FDを1回実施し、コロナ禍での教育について議論した。 ③大学院学位プログラム化に関連して、企業での長期インターンシップを単位認定する体制を整えた。 【教育方法・内容】 ①電子メール等を活用して受講生と教員の積極的な意思疎通を図り、問題点があれば改善に努めた。 ②配属研究室以外の教員を副指導教員とする副指導教員選定を徹底し、学生支援体制を強化した。 ③各種サポートが必要と思われる学生(病気、障害、不登校等)に対して、指導教員・副指導教員・旧担任教員と連携し、必要に応じ学生総合支援委員会委員教員がフォローすることで、学生支援体制を強化した。 ④指導教員等による面談を実施することで、休学者数の低減に努めた。 【教育の成果(学習の成果、卒業後の進路)について】 ①在学生・修了生を対象に、大学院進学や修了後の進路・研究活動に関するアンケートを実施した。 【国際共同による教育の状況】 ①博士課程・博士後期課程への外国人留学生の受け入れを組織的に推進するために、ONECUS受入可能な薬学系教員を募り、情報提供を行うこととした。 ②海外からの博士課程入学志望者に対する海外特別入試を実施することとし、オンラインでの実施も可能とするための実施要綱の作成に取り掛かった。 【外国人留学生の受入状況】 ①博士後期課程を9月末で単位取得満期退学したハイフォン医科薬科大学教員1名は、在学中の学位取得には至らなかったが、引き続き共同研究として研究を継続し、本学での学位取得を支援することとなった。 ②2022年10月博士課程入学志望のハイフォン医科薬科大学教員1名に対するマッチングを行い、入学後の研究指導体制を構築し、国費留学生として推薦した。 【その他】 ①ホームカミングデイにあわせて開催予定であった同窓生シンポジウムにおいて本学大学院卒業生による講演会を企画したが、コロナ禍により本年度は中止となった。 ②大学院講義については、全てオンライン対応可能となったことから、これまで博士後期課程のみであった国立衛生研究所との連携大学院に来年度より博士前期課程を開講することとし、他大学出身者2名を含む3名が入学予定である。</p>
<p><b>②研究領域</b></p> <p>【研究の実施体制ならびに実施状況】 ①連携大学院である国立医薬品食品衛生研究所とのプロジェクトを遂行するとともに、大学院博士後期課程に進学する学生・社会人を募り、新たな共同研究を開始する。 ②薬効解析学研究室(上原教授)と国立医薬品食品衛生研究所薬理部門との連携プロジェクトに加えて、新たに環境省国立水俣病総合研究センターとの共同研究体制を敷き、今後の発展に繋げる。 ③上記の取り組みをHPなどで紹介し、成果を学会発表や学術論文として公表し、多様な大学院生を引き続き募り、リカレント教育を充実させる。 【研究資金の獲得状況】 ①科研費を含む外部資金獲得に関して、引き続き当該教員全員(100%)が応募するよう努めつつ、採択率の更なる向上を目指す。また、応募件数も教員当たり1.0以上となるよう、複数の科研費に応募する教員数を増やすように、教員会議を通じてアナウンスする。 ②採択率向上を目的とし、有志教員による調書の添削も引き続き実施する。 【国際共同による研究の状況】 ①博士後期ダブル・ディグリーでの国際共同研究を推進する。 【女性・外国人研究者の受入状況】 ①博士後期課程でのハイフォン医科薬科大学教員1名(女性)および博士課程入学志望のハイフォン医科薬科大学教員1名(女性)との国際共同研究を推進する。 【外国研究機関における研究従事状況】 ①インド国コルカタ市のコレラ及び腸管感染症研究所に教員3名が常駐することにより、下痢症感染症に関する国際共同研究を継続して推進する。</p>	<p>研究領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</p> <p>【研究の実施体制ならびに実施状況】 ①国立医薬品食品衛生研究所に所属する学生が本学大学院入試を受験し、合格した。 ②薬効解析学研究室(上原教授)と国立医薬品食品衛生研究所薬理部門及び環境省国立水俣病総合研究センター 基礎研究部との共同研究体制を開始した。 ③上記の取り組み成果に関して原著論文発表や学会発表を介して、学内外へアピールするとともに、リカレント教育の一環として、6月に薬学部公開講演会で紹介した。 【研究資金の獲得状況】 ①科研費を含む外部資金獲得に関して、退職者を除く当該教員の100%が応募し、採択率の更なる向上を目指した。また、応募件数も教員当たり1.0以上となるよう、複数の科研費に応募する教員数を増やすように、教員会議を通じてアナウンスし、応募件数は退職者を除く教員当たり1.59となった。 ②採択率向上を目的とし、有志教員による調書の添削を実施した。 【国際共同による研究の状況】 ①博士後期ダブル・ディグリーでの国際共同研究を継続し、実施した。 【女性・外国人研究者の受入状況】 ①博士後期課程でのハイフォン医科薬科大学教員1名(女性)との国際共同研究を継続実施し、博士課程10月入学のハイフォン医科薬科大学教員1名(女性)との国際共同研究を開始した。 【外国研究機関における研究従事状況】 ①インド国コルカタ市のコレラ及び腸管感染症研究所に設置の共同研究センターに教員2名が常駐し、下痢症感染症に関する国際共同研究を継続して実施した。また、同研究所において、国立感染症研究所、広島大学、及び法政大学との複数機関共同研究も開始した。</p>
<p><b>③社会貢献(診療を含む)領域</b></p> <p>【国際交流・協力】 ①成均館大学(韓国)、ハイフォン医科薬科大学(ベトナム)、サン・カルロス大学(フィリピン)との連携をさらに深めるとともに、交流協定(新規)締結に向けてバンメート大学(ベトナム)との協議を進める。 【地域社会との連携、社会貢献】 ①薬剤師を対象とした薬学部公開講座の開催等を通じて、薬学に関する最新情報の提供と知識の向上・啓発に努める。 ②地域の職能団体等と連携した卒前・卒後教育の実施、岡山県薬剤師研修協議会と連携した各種薬剤師研修事業への参画を推進する。また、中高生の薬学への理解を深めるための連携事業を推進する。 ③各種講演会等にあわせて薬用植物園の一般公開を実施し、薬学関連の科学に対する社会的な理解を進める機会とする。 【その他】 ①同窓生の交流を推進するため、岡山大学ホームカミングデーにおいて、卒業生と在学生在が交流する機会を設ける。 以上の各種事業をCOVID-19の流行状況に留意しながら、BCP等に基づいて進める。</p>	<p>社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</p> <p>【国際交流・協力】 下記の事業の実施を計画したが、COVID-19の世界的な感染拡大による海外渡航の制限があったため実施できなかった。 ①成均館大学(韓国)、ハイフォン医科薬科大学(ベトナム)、サン・カルロス大学(フィリピン)との連携をさらに深めるとともに、交流協定(新規)締結に向けてバンメート大学(ベトナム)との協議を進める。 【地域社会との連携、社会貢献】 ①薬剤師を対象とした薬学部公開講座は、COVID-19の感染拡大の懸念から今年度の実施を断念した。 ②地域の卒後教育および中高生を対象とした連携事業は、高校生を対象としたオンライン講演会として実施し、県内外から155名の参加を得た。 ③薬用植物園の一般公開はCOVID-19の感染拡大の懸念から今年度の実施を断念した。 【その他】 ①岡山大学ホームカミングデーにおける同窓生の交流、卒業生と在在学生の交流は、COVID-19のため実施できなかった。</p>
<p><b>④管理運営領域</b></p> <p>【部局運営体制の改善強化】 ①医学系、歯学系との継続的な協力により、部局運営体制の改善強化を進めていく。 【部局組織の活性化】 ①適切な部局運営を行うために、医学系、歯学系と継続的に協力していく。 【ダイバーシティの推進】 ①女性教員のさらなる採用や昇進等の可能性に関して引き続き検討する。 【効率的・戦略的な予算配分・執行】 ①省エネ意識の喚起等によって経費節減を図るとともに、各委員会等の実施計画等を精査し、引き続きより効果的な予算執行を目指す。 【安全衛生に対する配慮】 ①適切な管理活動計画を立案し、それに基づいた適正な安全衛生活動を推進する。 【施設整備の推進】 ①安全・安心な教育研究環境を確保するため、現有施設の点検および機能改善整備を推進する。 【法令遵守の徹底】 ①情報セキュリティ、適切な会計処理、適正な研究活動等に関して、継続的に法令遵守について啓発するとともに、講習やwebシステム等による確認と周知を図る。</p>	<p>管理運営領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</p> <p>【部局運営体制の改善強化】 ①医学系、歯学系との継続的な協力により、部局運営体制の改善強化を引き続き進めた。 【部局組織の活性化】 ①適切な部局運営を行うために、医学系、歯学系と継続的に協力した。 【ダイバーシティの推進】 ①女性教員のさらなる採用や昇進等の可能性に関して、継続して検討した。 【効率的・戦略的な予算配分・執行】 ①省エネ意識の喚起等によって経費節減を図るとともに、各委員会等の実施計画等を精査し、より効果的な予算執行を行った。 【安全衛生に対する配慮】 ①適切な管理活動計画を立案し、それに基づいた適正な安全衛生活動を推進した。 【施設整備の推進】 ①安全・安心な教育研究環境を確保するため、現有施設の点検および機能改善整備を推進した。 【法令遵守の徹底】 ①情報セキュリティ、適切な会計処理、適正な研究活動等に関して、継続的に法令遵守について啓発するとともに、講習やwebシステム等による確認と周知を図った。</p>